

第5学年「総合」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 目的に応じて、「まとめ・表現」の仕方を選択することができる。
 - 教師が提示した思考ツールを適切に用いて、課題設定や整理・分析、振り返りをすることができる。
- 課題**
- ▼ 整理・分析の前に活動が先行してしまい、活動の質が高まらないこと。
 - ▼ 探究的な学習過程を理解し、児童主体となって活動を進めていくこと。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 整理・分析力。思考ツールを適切に用いて考えを伝え合うことで、活動の内容を精選するとともに、計画や役割を明確にして次の活動につなげる力。
- ◇ 探究的な学習過程を理解し、児童主体となって活動を進めていく力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 振り返りの時間を大切に、本時の学びを整理するとともに、次時の見通しをもつことができるようにする。
- 地域の方と積極的に連携し、体験を通して探究できるようにする。

言語活動の工夫

- 児童一人一人が考えをもつ時間と、それらを伝え合う時間を分けて設けることで、活発な言語活動につながるようにする。
- 場面に応じて適切な思考ツールを用いることで、整理・分析を行いやすくする。

ICT活用の工夫

- 情報収集や意見の共有、まとめの場面において、目的に応じて活用する。

課題解決力育成の工夫

- 探究的な学習過程を見通して児童が学習計画を立てることで、自らが課題を発見し、解決していく流れを身に付けることができる。

達成目標

- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。